

一般財団法人宗像協会(宗像財団)

2025年度報告書

2026年7月



ザレカ難民キャンプに暮らすLGBT難民の人たちと
2024年2月撮影

宗像財団について

設立寄付：宗像康子、ジョー新宅

設立代表理事：田中真奈

設立年月日：2019年2月6日

宗像財団は2019年2月に設立された非営利型の一般財団法人です。

「今いる社会に居場所のない、世界のマイノリティのために」をテーマとして、国内外において貧困問題、教育格差の問題、マイノリティの課題、多様性の推進に取り組んでいます。

これまで**宗像助成金**を通じて、南アジア3カ国（インド・パキスタン・バングラディッシュ）と南部アフリカ3カ国（マラウイ・マダガスカル・モザンビーク）で12の事業を支援してきました。またマイノリティの立場からSNS発信をする若者への小規模な助成金（Munakata Seed Grant）もスタートさせています。

宗像助成金は一つの事業に対して9000米ドル（約145万円）と小規模ですが、代表自身が直接訪れた団体と個人の中から、相互の信頼と対話をベースに選ばれていることが特徴です。

2025年度総括

2019年から6ヵ国12事業を支援してきた宗像助成金も、最後の1つとなるマラウイのLGBT難民支援が今年度をもって終了となります。現地ではLGBT難民への暴力を抑止するための警察官への研修が行われ、関係者協議会を開催して啓発活動に取り組んでいます。一方で足元である日本での啓発活動、助成金の展開を始めており、今年度は多様なジェンダー・セクシャリティーからなる家族を支える「にじいろかぞく」への宗像助成金支援を決めました。

海外出張はない1年でしたが、リモートオフィスを置いている島根県出雲市への国内出張を行いました。出雲大社で財団の今後の良縁を祈願してきました。

啓発活動

宗像財団では助成金事業だけではなく、私たちが行う支援の形やマイノリティの声を発信することで国内外の人たちの意識を変えていく啓発活動にも重点を置いています。本年度も上智大学とさいたま大学で出張授業を行い、TICAD9のNGOフォーラムでも展示を行いました。またLGBTドキュメンタリー『We Exist 私たちの居場所エピソード2』にも出演しています。

また2024年の6月から取り組んできたJICA初となる全世界性的指向・性自認・ジェンダー表現・性の身体的特徴(SOGIESC)に係る調査の成果品として「多様なSOGIESCの包摂に係る調査実施ガイダンスノート」が2025年にインターネット上で公開されました。



出雲大社参拝 2026年6月撮影

2019～2025年度 宗像助成金実績

総額
5197万円

プロジェクト内容	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
人身取引被害者のための シェルター運営と少年保護 (インド・アッサム州)	2,466,000 円	2,008,000 円	支援総額 8,488,500 (助成金 卒業)	0円 (助成金 卒業)	0円 (助成金 卒業)	0円 (助成金 卒業)
農村地域での看護助手 養成事業 (インド・コルカタ)	1,341,000 円	0円 (2022年 度 継続支援)	1,008,000円	支援総額 5,371,000 (助成金 卒業)	0円 (助成金 卒業)	0円 (助成金 卒業)
安全な飲料水提供と 女性のエンパワメント (モザンビーク・モアンバ郡)	2,000,000 円	支援総額 6,000,000 円 (助成金 卒業)	0円 (助成金 卒業)	0円 (助成金 卒業)	0円 (助成金 卒業)	0円 (助成金 卒業)
LGBT難民支援とコミュニ ティでの啓発活動 (マラウイ・リロングウェ)	1,342,439 円	1,847,846 円	4,004,579円 (緊急シェ ルター支援)	2,784,321 円	2,225,527 円	支援総額 13,979,463 円 (助成金 卒業)
若者の研修所ユース・ インパクト・ラボの運営 (マダガスカル・アンタナナリボ)	1,085,260 円	支援総額 3,071,340 円 (助成金 卒業)	0円 (助成金 卒業)	0円 (助成金 卒業)	0円 (助成金 卒業)	0円 (助成金 卒業)
ロヒンギャ難民のホスト コミュニティ支援 (バングラディッシュ・ コックスバザール)	0円 (コロナによ る活動延 期)	0円 (活動再 開)	支援総額 1,000,000円 (助成金 卒業)	0円 (助成金 卒業)	0円 (助成金 卒業)	0円 (助成金 卒業)
トランス女性への暴力防止 プロジェクト (パキスタン・ラホール)	712,705 円	1,032,500 円	814,168円 (半期分+ インフレ対応 1500ドル)	660,748円 (助成金 卒業)	支援総額 4,223,686 円 (助成金卒 業)	0円 (助成金 卒業)

2019～2025年度 宗像助成金実績

プロジェクト内容	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
開放病棟による薬物リハビリセンターの運営 (パキスタン・ラホール)	1,003,330 円	564,399 円 (半期分は 2022年度 へ)	615,341円 (半期分)	660,748円 (助成金 卒業)	支援総額 3,851,018 円 (助成金 卒業)	0円 (助成金 卒業)
トランス女性と若者への 就労機会の提供 (パキスタン・ラホール)	1,281,450 円	1,143,650 円	556,215円 (洪水緊急 支援のみ)	支援総額 3,988,515 円 (助成金 卒業)	0円 (助成金 卒業)	0円 (助成金 卒業)
LGBTドキュメンタリー 制作費 (東京・大阪・広島)					支援総額 1,000,000 円 (助成金 卒業)	0円 (助成金 卒業)
にじいろかぞく 「子どもサミット」運営費 (東京)						1,000,000 円

TICAD9 NGOフォーラム展示

第9回アフリカ開発会議（TICAD9）が2025年の8月20～22日に横浜で開催されました。宗像財団としては、前回2019年の横浜会議参加の折には「アフリカにおけるダイバーシティ&インクルージョン」と銘打ったセミナーを開催しましたが、今回はLGBT難民支援のパネル展示を行いました。

アフリカ54カ国のうち、同性間の性行為が刑事罰の対象となる国はおよそ34カ国あり、財団が支援しているマラウイもその一つです。マラウイのザレカ難民キャンプにはおよそ200名前後のLGBT難民が生活していますが、その大半はLGBTへの弾圧がより厳しいコンゴ民主共和国やケニアなどからの避難民です。現地で出会った難民の中には宣教師の人もおり、厳しい弾圧の中にあっても信仰を保っている姿に感銘を受けました。日本からのゲストが来るからと、セーラームーンのTシャツを着て来てくれた難民の方もいて、通訳として活躍していました。同行したパナソニックのCSR担当者は、日本における被差別部落の人々と重ね合わせて、そういった方々を支援するということの意義をビデオメッセージで語ってくださいました。

TICAD9開催期間は、展示ブースにて田中が執筆した『国際協力とプライド』の英語版“Rainbow Pride and International Cooperation”を無料で配布しました。またノベルティの宗像財団ボールペンも好評で、アフリカから来た代表団の方々が足を止めて展示を見て、ボールペンを受け取っていました。日本の大学生、大学院生でLGBT難民を卒論や修論のテーマとしている学生も訪れて、熱心に質問をしていました。アフリカ支援をしているNGOが一同に会したフォーラムでしたが、参加団体の中でLGBT難民支援を行っているのは宗像財団だけで、その存在感を十分に示す機会となりました。



にじいろかぞく 新規助成金支援先

プロジェクト名: LGBTQ+ファミリーで育つ子どもたちの全国サミット

実施団体: 特定非営利活動法人 にじいろかぞく

プロジェクト実施期間: 2026年5月～2029年4月

目的: LGBTQ+ファミリーに育つ子どもたちは、自身がマイノリティではありませんが、置かれたファミリー自体が社会の中で少数派である、いわば「巻きこまれマイノリティ」です。そんな彼らが育ちゆき、小学校以上になるにつれて、少数派ゆえの生きづらさが生まれてきます。しかも彼らは「保護者のことが大好きであり、保護者たちが自分を大切に育てている」ということを知っていればこそ、社会の中で問題が発生しても、その悩みを学校・家庭どちらでも語ることがしづらいという、特有の課題を持っています。これまで「ファミリーを形成しようとするLGBTQ+」に寄り添うことに注力してきたにじいろかぞくですが、このプロジェクトは、「こども」を中心に、彼らの心によりそい、あえて「保護者不在・保護者には本人が希望しない限り、語ったことをヒミツにする」という約束をした上で、同じ立場の子どもたち同士が自由に語り合える合宿型のサミットを開催します。それにより、全国に多数いながらも、孤立した状態にあるLGBTQ+ファミリーで育つ子どもたちの孤立感を解消し、彼らの悩みの言語化を助け、またそこに手当が必要であれば必要な助力に結びつけるというきっかけとします。

【子どもたちの課題】日常的に「両親（パパとママ）が揃っている」ことを前提とした質問を受けたり、学校等で多数派とは異なる自分の家庭について話しづらさを感じたりするなど、社会の中で少数派であることによるマイクロアグレッションに直面しています。

【このサミットによって達成されること】子どもたち自身が「自分が少数派ではない」「自分の家庭についてごく自然に話が出来る」「他の子どもたちも同じ立場である」と心から安心できる状況を作り出します。この体験を通じて、子どもたちの孤立感を和らげ、ありのままの自分と家族を肯定できる環境を達成します。

にじいろかぞくのこれまで15年の活動において、北は北海道、南は沖縄まで、数多くのLGBTQ+ファミリーと結びつきをもってきました。地方においては「その地で自分以外にLGBTQ+ファミリーに出会ったことがない」と語る子どもたちも多くいます。親がカミングアウトしているか否かは、その子やその周囲には関係のないもの。そこで、全国から、あえて集まり、直接顔を合わせる合宿型のイベントとすることで、対面でのリアルな会話のできる場所を作ります。

「サミットタイム」には、こどもの心に寄り添うプロフェッショナルをファシリテーターとして最低2名+看護師が同席し、保護者は近接の別場所に移動して「おとなサミット」を行います（思春期にさしかかる子どもたちのケアについての話しあい、その他子どもが大きくなるにつれて変化する親同士の悩み語り合いの場所とします）。

助成金支援先活動報告

マラウイ

マラウイの当事者団体であるIVY FOUNDATIONを通じて、LGBT難民の安全なシェルター運営とザレカ難民キャンプ内のLGBT難民支援を実施しています。



第三国定住した難民のフォロー

安全なシェルターで保護していたLGBT難民のうち1名がアメリカへ、2名がカナダへの第三国定住を決めてマラウイを離れました。IVY FOUNDATIONではカナダに移住した難民のフォローを行っており、馴染みのない新しい土地での生活を支援しています。

Access to Justice(正義へのアクセス)研修会

警察官を対象として、LGBT難民への暴力、差別、嫌がらせといったキャンプ内のリスクの高さを伝える研修が3日間行われました。難民の多くはスティグマや報復を恐れて警察に訴え出ないため、こうした事案が過少報告されています。警察側からはザレカ難民キャンプで捜索するための財政的、物流的な資源の不足が指摘され、キャンプ内の政府予算増加の提言が行われました。



ザレカ難民キャンプでの英語研修

ザレカ難民キャンプ内にはフランス語圏(コンゴ民主共和国やブルンジ出身者)から逃れてきて英語が苦手なLGBT難民も多いため、そうした難民を対象とした英語研修を支援団体を通じて実施しています。マラウイの当事者団体を通じたこの取り組みは、これまで外部との接触を避けていたLGBT難民にとっては救いとなっています。



人権団体との協議

マラウイでは2023年度よりキャンプ外で生活していた難民をザレカ難民キャンプへ強制移住させる政策が施行されており、LGBT難民も例外ではありません。強制移住による生活・安全面のリスクについて、関連する人権団体との協議を実施しています。

JICA調査 ガイダンスノート

代表の田中が関わった多様なセクシュアリティとジェンダーを包摂するための調査ガイダンスノートがJICA側から公開されました。教育部分は田中が執筆しています。このようなガイダンスノートが出されたことに、万感の思いがあります。

SOGIESC



多様なSOGIESCの包摂に係る 調査実施ガイダンス・ノート

2025年度
会計報告

一般財団法人宗像協会				
正味財産増減計算書				
2025年7月1日から2026年6月30日				
(単位：円)				
	科目	当年度 (2025年7月1日から 2026年6月30日まで)	前年度 (2024年7月1日から2025 年6月30日まで)	増減
(2)	経常費用			
①	事業費	7,479,123	9,853,870	△ 2,374,747
	給与	-	-	-
	法定福利費	-	-	-
	役員日当	70,000	100,000	△ 30,000
	プロジェクト実施費	2,855,338	4,338,440	△ 1,483,102
	業務委託費（外注費）	4,227,121	4,502,200	△ 275,079
	交際費	-	38,963	△ 38,963
	消耗品費	6,210	358,124	△ 351,914
	新聞図書費	-	100,450	△ 100,450
	公告宣伝費	-	37,502	△ 37,502
	旅費交通費	139,934	46,750	93,184
	会議費	-	4,400	△ 4,400
	研修費	-	-	0
	通信費	180,520	327,041	△ 146,521
②	管理費	325,469	304,015	21,454
	賃貸料	116,160	106,480	9,680
	消耗品費			-
	均等割（住民税・都民税）	70,000	50,000	20,000
	旅費交通費			-
	印刷費			-
	諸会費（ゴールドカード）	9,900	11,000	△ 1,100
	保険料			0
	外注費（監査報酬）	110,000	110,000	0
	通信費			-
	支払手数料	19,409	26,535	△ 7,126
	為替差損益			0
	その他			0
	経常費用計	7,804,592	10,157,885	△ 2,353,293
	当期経常増減額			-
2	経常外増減の部			
II	指定正味財産増減の部			
	受取寄付金	159,780	140,930	18,850
	特定資産受取利息増減額	142,704	49,372	93,332
	特定資産為替損益増減額			-
	一般正味財産への振替額	△ 7,804,592	△ 10,157,885	2,353,293
	当期指定正味財産増加額	△ 7,502,108	△ 9,967,583	2,465,475
	指定正味財産期首残高	75,748,753	85,716,336	△ 9,967,583
	指定正味財産期末残高	68,246,645	75,748,753	△ 7,502,108
III	正味財産期末残高	68,246,645	75,748,753	△ 7,502,108

宗像財団役員

松浦評議員が理事に選出され、長谷川ファンドレイジング顧問が評議員に選出されました。



田中真奈
代表理事兼事務局長
海外コンサルタント



深町英樹
理事
社団法人GEMSTONE代表



松浦由佳子
理事
難民支援団体職員
専門:平和構築



長谷川攝
評議員
日本フィランソロピック財団
理事



穂満将徳
評議員
システムエンジニア



田中誠
評議員
日本聖公会司祭



納野知広
監事
仙川共同会計事務所

ご寄付

宗像財団では活動へのご寄付をHPを通じて受け付けております。下記のQRコードより、クレジットカード払いが可能です。毎月定額を寄付する「サブスク」の選択肢もございます。ゆうちょ銀行の振り込みをご希望の場合は、下記の振替口座までお願い致します。

ゆうちょ銀行振替口座

記号番号:00150-3-635582

支店番号:(当座)019店

口座名(漢字):一般財団法人宗像協会

口座名(カナ):ザイ)ムナカタキョウカイ

他の銀行から振り込まれる場合

銀行名:ゆうちょ銀行

預金種目:当座預金

記号番号:635582

支店番号:〇一九店(全て漢数字にて入力)

お問合せ

一般財団法人宗像協会(法人番号:0124-05-004289)

営業所

〒699-0711

島根県出雲市大社町杵築南1383-5 イデアビル2F

e-mail: chair@mnkt.ch

FAX: 03-4296-8194

ホームページにもお問合せフォームがございます。

www.mnkt.ch

関連QRコード

ホームページ



YouTubeむなかたチャンネル

